

情報コンクール最優秀賞受賞機関研修

～宮古島の現実を学ぶ～

11月5日～7日「第27回情報コンクール最優秀賞受賞機関研修」を対象機関の代表者が参加し、宮古島で開催しました。過去の沖縄戦と、現在の宮古島の自衛隊増強におけるミサイル基地配備を学び「標的の島」とされている生活の現実を掴むと共に、憲法9条を守り抜く自分自身を創り出すことを目的に取り組みました。

以前に政経フォーラムで講演していただいた石嶺香織さんの案内で島内各地を踏査すると共に、様々な方との意見交換の場を設定していただき、宮古島の現実を学びました。

宮古島の歴史について

沖縄戦が繰り返されていた当時、宮古島の島民は約6万5千人で、そのうち約1万2千人が疎開しました。宮古島に配備された日本軍の兵士は約3万人であることから、宮古島には約8万人以上が居住していたことになり、食料が尽きるのも時間の問題であったことがこの数字からも読み取れます。日本軍が、残された農地を軍要員自給用農地として接収したことから裏付けられます。

土地や食料を日本軍に奪われ、食料不足が深刻化した中で住民は、イモやかたつむり、処理をしないと有害な鉄を食べて生き延びました。「自分の畑なのに、採っているのを見つかったら、どんな罰を受けるか分からない」という悔しい思いをしながら、命をつないできた方も多くいました。

宮古島における日本兵の戦死者は2569人、住民の犠牲者は3428人で、死亡原因の大半は、餓死とマラリアでした。



千代田地区の基地建設工事

宮古島の現在の状況

南西諸島に基地が配備されることを、2014年に防衛省から要請を受けました。水道水源保全地域にある大福牧場が当初の候補地でしたが、地下水を守るための対策を講じて変更されました。

現在、千代田地区、保良地区の2カ所で工事が進み、地对艦・地对空ミサイル部隊を含め、800人規模の人員が配置され、車両整備場、宿舎、弾薬庫、射撃練習場等が設置される計画です。奄美、沖縄本島、宮古島、石垣島、与那国島の南西諸島全体に陸上自衛隊が配備される計画で、「防衛の空白地帯を埋める」島を守るための自衛隊配備」と沖縄防衛局は示しています。



クレーン車の多さが、急速な工事を物語っている

しかし、本来の狙いは「敵基地攻撃能力を持つこと」であり、相手国がミサイルを発射する前に敵の基地をつぶすためであることが窺えます。

将来へ不安を抱える住民に対して 市長の理不尽・無責任な言動

宮古島は、珊瑚礁が隆起してきた島であり、山や川がなく、飲料水、農業用水、工業用水など全ての水を地下水に頼っています。地下水が汚染されれば生きにくい状況なのです。

地下水は有害物質で汚染されたら沈殿して、ほとんど再生不可能とされています。しかし、地下水が水道水として利用されている水道水源保全地域にある大福牧場が自衛隊基地の候補地となりました。

2014年6月12日に候補地調査の要請を防衛副大臣から受け、2015年5月11日に、候補地が示されています。この時に、市長は候補地を初めて聞いたと言っていました。1月、2月、3月に防衛局等と面談を

行っていたことが後に発覚します。

また、地下水保全条例に基づく「地下水審議会学術部会」が出した基地配備に対する否定的見解に対して、市長と副市長は、肯定的な内容へ修正するように要求していました。

さらに市長は、地下水審議委員の任期が切れる時期に「新しい知見がほしい」という理由で、これまで長年宮古島の地下水を研究し、経験のある委員を交代させています。地下水審議会が開催されると、住民に対して曖昧にしてきたことに答えなければならず、地下水審議会を開かせない方針が貫かれていることは明らかです。そもそも市長には、宮古島の地下水を守る責任があり、その責務が果たされていないことは明白です。



水道水源保全地域にある大福牧場

「防衛計画の大綱」の見直しについて

政府は「防衛計画の大綱」を改訂するため様々なことを検討しています。中国・北朝鮮など東アジアの安全保障環境の変化に対する装備として、地上配備型迎撃システム「イージスアショア」の導入、「海上輸送部隊」の創設、「多用途運用母艦」と名称を変えた護衛艦「いずも」の事実上の空母化、宇宙・サイバー空間での脅威にも対応する改訂等を目指しています。2018年度の防衛費の予算は5兆9911億円、4年連続で過去最大を更新しています。国内総生産比では0.9%になっています。政府は、軍人恩給など防衛省以外の関連経費を含む新しい国内総生産比の目安を設け、1.3%程度へと上積みを図ろうとしています。防衛費を際限なく増やしていけば、軍事大国化へと突き進んでしまうことは、間違いありません。

不安のない社会で家族を守るために

宮古島では、工事が着々と進められています。市民を守らない市長が存在する社会は、住民を守らなかつた軍隊の体質と酷似します。住民説明会では「住民の権利をどう考えているのか」との質問に対して、沖縄防衛局は「住民の権利という質問の意味が分からない」「住民は基地配備に反対しているが、住民の同意を得なければならぬ」という法律はない」と配慮がない姿勢を貫き通しています。

石嶺さんたちは、工事が着工された今でも生活を守るために、諦めずに声を上げ続けています。私たちは、そのことを教訓にしなければなりません。

このような事実を知ること、掴む努力をすることなく無関心であれば、知らず知らずのうちに不安を煽られて、騙されてしまいます。これは、社会のことだけではなく職場の中でも同じことが言えます。思っている声を上げなければ何も変わりません。声を上げるにしても、一人では力が弱いです。だからこそ、仲間・労働組合の存在が不可欠です。そして、現場長から言われることを呑み込むのではなく、何が正しいのかと見極める力を養うことが重要です。

意見交換を行った際、「ていだぬふぁ 島の子の平和な未来をつくる会」共同代表の石嶺さん・楚南さんは、子ども時代に「ここに家を建てなさい」と言えない現実があると、本音を語っていただきました。その土地を愛し、その土地で元気な子どもを育てたいだけなのに、それができない社会であることの自覚も必要です。

今の私たちの職場に当てはめたとき、どうでしょうか。堂々と働きがいのある良い職場だと言えるでしょうか。不安なく、明るく仕事ができる会社・職場を創るために、声を上げ続けていきたいと思います。そして、家族を守るためにも社会の動きに関心をもち、真実を見抜く力を養っていきましょう!!



千代田地区の方との意見交換

「元気な子供になるように育てたいだけ」

「不安な将来で、子供たちに苦しい思いをさせたくない」

この想いは、特別なものではない!!